

令和5年度 京都府立向陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・~~実施段階~~）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○家庭や地域社会から信頼され、期待される安全・安心で魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>○一人一人の生徒の個性と能力を最大限に伸ばし、将来の夢や可能性を広げる確かな学力をつける。</p> <p>○知徳体美のバランスのとれた生徒を育成し、すべての生徒がよりよい社会の構築に貢献できる力をつける。</p>	<p>○第1学年対象のICT活用状況調査の結果、全体として教員の学習用タブレット端末使用割合は50パーセントを超えているが、今後は全ての教員が学習用タブレット端末を効果的に活用できるよう研修等の取組を進める。</p> <p>○1, 2年生では、担任、副担任がチームを組んで、地域と連携した総合的な探究の時間を進めることができた。今年度はさらに取組を深化させて、生徒たちの自主性や自己有用感を醸成し、企画力や提案力、発信力を育む取組にしたい。</p> <p>○校則の見直しについて、生徒会とPTAの意見交流の場を持つことができた。今後は、生徒が校則について主体的に考える機会を増やし、規範意識や自律性の醸成につなげたい。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症が収まってきたことから、地域の小学校と連携した学習支援やボランティア活動に取り組むことができた。今年度はさらに地域社会との交流の機会を増やし、社会参画意識の向上を図りたい。また、部活動加入率を高めて、学校の活性化や魅力化につなげたい。</p> <p>○進路意識の醸成や学力向上のための実力テスト準備期間や総合型選抜に対する面接指導や志望理由書作成など、新たな取組の実施や従来の取組の深化を図ることができた。今後は、3年間の進路指導スケジュールを教職員と生徒が共有する中で、学力の向上と希望する進路の実現を目指す体制を作っていく。</p>	<p>○学習指導要領の趣旨に沿って評価の工夫やICTの活用に努め、わかる授業、伸ばす授業を追求するとともに、総合的な探究の時間を適切に実施し、生徒の学習意欲を喚起し、確かな学力を育む。</p> <p>○挨拶の励行、遅刻の防止、身だしなみの指導などにより基本的生活習慣の育成を図るとともに、生徒や保護者、専門家などの意見も参考にしながら、校則のあり方について検討し、高い規範意識や自ら考えて行動する姿勢を育む。</p> <p>○教職員、生徒が3年間の進路指導スケジュールを共有し、生徒全員の学力の向上と希望する進路の実現を目指す。</p> <p>○積極的な地域連携、校種間連携を進めるとともに、部活動やボランティア活動、読書活動等を推進し、積極的に挑戦する姿勢や自己有用感、社会参画意識を育む。</p> <p>○学校の特色化・魅力化について検討し、スクールポリシーの策定につなげるとともに、積極的な広報を行うことにより志願者の拡大を図る。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習指導	ICT機器利活用の推進等により基礎学力の向上を図る。	ICT推進会議を中心に組織的な取組を進め、ICT機器を利用した授業実践の交流等により、特に学習用タブレット端末の授業や家庭学習場面での活用を進める。	A	今年度はICT機器を利用した授業実践の交流はできなかったが、生徒のICT活用状況調査の結果を見ると、どの教科、科目でも積極的に活用されていた。今後は、ICT機器を利用することが目的になってしまわないよう、効果的な利用をしていきたい。そのために、今後は教員間で活用方法の交流など行っていきたい。
	総合的な探究の時間を中心に探究活動を進め、生徒の自己実現につなげる。	教育推進部学年担当者が、具体的な指導計画の提示や関係諸機関との連携等を行い、総合的な探究の時間担当者が効果的に授業をすすめることができるようにする。	B	1年生は「向日市の課題と解決策の提案」、2年生は「向日市及び向陽高校の魅力発信」のテーマの下、向日市や地元の小学校、企業などと連携をとりながら、計画的に授業を進めることができた。到達目標や身に付けさせたい力について、教員間でさらに共通認識を深め、より効果的な授業となるよう授業のあり方を見直ししていくことが来年度に向けた課題である。
生徒指導	問題行動の未然防止とともに、基本的生活習慣の確立と自己指導能力の育成を図る。	課題を抱える生徒へ多くの教員が携わる機会を設けることにより、生徒自らが自発的・主体的に発達していくことができるよう生徒への声かけ、指導の充実を図る。他分掌とも連携して朝の登校指導・遅刻指導等を学校体制で組織的にを行い、継続した指導をととして規則正しい生活習慣の確立をはかることにより、遅刻指導の延べ件数を各学年100件未満とする。	A	組織的な指導により、SHR以後や指導週間以外での遅刻者について継続的に指導する事ができた。また今年度より、多くの分掌の協力を得て行き、学校全体としての指導体制を構築することができた。SHRの時間の変更に伴い、次年度の早朝登校指導のあり方については検討が必要である。
	部活動や学校行事に取り組む中で、自主的・主体的に行動し豊かな感性を持った生徒を育成するとともに、校則について生徒会・PTAと協力して見直しを進める。	新歓や生徒会のイベントの内容を充実させることにより多くの生徒に部活動への興味を持たせ部活動の加入率を昨年度より5%以上高める。向陽祭の運営を生徒会主体にして、生徒自身の企画・運営力を高める。校則について、生徒会を中心に意見を表明し議論する場を設け、生徒自身が本校の校則についてその意義・改善点を考えることによって、主体的に社会で生きる力を育む。成人年齢の引き下げを踏まえ、社会人としての自覚を促し法令遵守の意識を高める。	A	新入生歓迎会、向陽祭において生徒会が主体となって運営させることにより、生徒の企画や運営する力の育成に努めた。また、公共の精神を重んじ、生徒一人一人の社会参画への意識を醸成するため、生徒自らが望ましいルールづくりを検討して校則見直しに向け生徒会アンケートの実施などの取組を進めた。（今年度3年生の昼休みスマホ解禁、冬季ネクタイの推奨化等の校則の見直しが実現した。）
進路指導	3年間の進路指導計画をもとに、生徒の進路目標の達成をはかるとともに、生徒への進路相談機能を一層充実させる。	3年間の進路学習・進路指導計画の「見える化」をはかり、教員・生徒ともが3年間を見通して「今行うべき進路に関する行動はこれだ」と明確な指標を示して日々の学習を進路学習につなげる工夫をする。「学びの基礎診断」の適正配置及び分析（令和3年度）、「進路補習の在り方」の見直し（令和4年度）に引き続き、「小論文指導」や「面接指導」、「自己PR指導」等の在り方について改善を図る。数値目標としては、新たに3年生に対し「進路決定と満足度」についてのアンケートを実施し、「満足できた」が80%を超えることを目標とする。	A	A 年間の進路指導計画を各ホームルーム教室や階段等に掲示し、教員・生徒ともに「今なすべき進路指導」を意識しながら学校生活を送れるよう共通理解を図った。3年生対象に実施した「進路指導アンケート」では、進路決定について満足しているとの意見が多く、多様な進路に進む本校の進路指導が肯定的にとらえられている。令和6年度は、「学びの基礎診断」の分析をととして、「志望理由書が書ける生徒」「面接で適切に受け答えできる生徒」「プレゼンで表現できる生徒」の育成を目指していきたい。
人権教育	自己と他者を尊重する態度を培う。	講演や視聴覚教材を用いて様々な人権問題を扱い、正確な知識を獲得し、自らの行動指針を考えさせる。各教科等の教育活動の中で人権意識を涵養し、望ましい人間関係を形成する。	A	A 各講演や視聴覚教材において、それぞれのテーマに関し、何が問題でどのように考え行動すべきかを示すことができた。今後は担任や教科担当との連携をさらに深め、人権についての正確な知識や望ましい人間関係の形成を目指した人権教育を推進していくことが課題である。
環境教育	環境教育の充実と学習環境の整備に努める	学習環境を整える態度を養うために、日常の清掃活動を徹底するとともに、各学期に美化委員による教室美化点検や広報活動を積極的に行う。	B	B 日常の清掃区域を見直して分担し、体育系・文化系の部活動とも連携して学校全体を良好な状態に保つことができた。また、清掃活動が円滑に進むように用具の整備や、倉庫を整理することができた。美化委員による清掃点検については今年度実施できなかったが、各学期に「美化委員会だより」を発行するとともに、文化祭の展示では「SDGSクイズ」を実施し環境教育に努めた。
健康・安全	生徒自ら健康の保持増進ができるよう健康教育を推進する	各学期に保健委員による教室の二酸化炭素濃度の測定や広報活動を行うとともに、1年生対象の性感染症講演会の講演会や各種講習会を計画・実施する。	A	A 感染症予防対策の一環として保健委員による教室の二酸化炭素濃度の測定を学期ごとに実施した結果を学年部と共有し、こまめな換気の必要性について注意喚起を図ることができた。また、各学期に「保健委員会だより」を発行することができた。さらに、今年度は1学期に1年生を対象に性感染症予防講演会を、夏季休業中には部活動部員対象(代表者)に向日消防署において普通救命講習を実施した。来年度は可能であれば普通救命講習への参加者を拡大させ、部活動中の事故予防や対応法について多くの生徒が学ぶことができる機会を増やしたい。
学校図書館	図書館が持つ読書・学習・情報センター機能により、教育活動を支えるとともに、生徒が読書活動をおして自ら考え行動できるように働きかける。	本を豊富に揃え、探究型学習やICT教育にも対応するためGIGA回線の導入や、老朽化している図書の備品（椅子など）の更新を行い、生徒や教職員に活用される魅力的な図書館づくりを進める。思考を深め、自ら行動できる生徒を育てるために活発な図書委員会活動や、教科や分掌との連携を行う。生徒と本の出会いの機会を演出する様々な取組をすすめる。	A	A 昼休みに図書館内での昼食を可能とする取組を試行し、生徒がより親しみやすい図書館にすることができた。またGIGA回線や大型スクリーンの導入が年度末に実現したので、今後さらに利用促進の働きかけを行っていくことが課題である。国語科の授業で「ヒプリオバトル」、「ぐるぐる読書」など多くの取組が為され、図書館の有効利用に役立った。また4年ぶりに文化祭で図書カフェを実施し、11月の図書フェスでも多くの催し物を委員会が企画し運営することができた。教員の指導の下、さらに生徒の自主的な取組を進めることが課題である。
危機管理	安心安全な教育環境の整備	新型コロナウイルス感染症が収まりつつあり、地域に開かれた学校教育活動が再開されることから、来訪者への入退管理の徹底、確認、声掛け、案内等確実な窓口対応を行い、来訪者の把握を行う。また、定期的に校内巡視を行い、死角となる場所を把握するとともに、これを改善し、安心安全な教育環境の整備を進める。	A	A 日々の来校者への入退管理の徹底、確認、声掛けを行うだけでなく、今年度は各種会議での来校者に対しても入校証を準備し、案内等確実な窓口対応を行い、来校者の把握に努めた。定期的に校内巡視を行い、危険箇所等の把握を行うとともに、計画的に改善を進め、安心安全な教育環境の整備を行うことができた。
家庭・地域社会との連携	地域や中学校に対して積極的に広報活動を行い、向陽高校の魅力をしっかり発信する。	中学校訪問の見直し（教員配置、時期・回数、配布物、情報伝達等）、ホームページの有効活用、SNSの利用、地域への広報紙の発行等を行う。	A	A 中学校訪問では分掌部長の協力のもと中学校ごとに訪問者を固定し、学校公開前に案内を持参するなど、丁寧な情報発信に努めた。また、学校公開案内時に広報誌「輝け今日よ」をカラー印刷配付し、本校の教育活動がより中学生に伝わりやすいように工夫した。ホームページ・SNSについても頻繁に記事を掲載し、地域版の「輝け今日よ」も作成した。次年度はホームページについて、さらに見やすく操作しやすくようにリニューアルできるよう現在検討を進めている。
	学校から各家庭に必要な情報が迅速かつ確実に伝わるようにする。	さくら連絡網の全家庭登録、機能の最大活用を進めることにより、家庭との連絡等を円滑・迅速に行えるようにしていくとともに、ペーパーレス化等効率のよい情報伝達を行う。	A	各家庭への連絡やPTAだよりなどの印刷物のペーパーレス化により学校からの情報伝達が迅速にできた。来年度も可能な限り年度当初早期にさくら連絡網の登録を完了して運用を開始していきたい。

学校関係者評価委員会による評価	総合的な探究の時間やボランティアでの取組において、小学校との交流は高校生にとっても自らの学びを振り返るとともに自己有用感を高めることができるよい機会である。今後、社会で必要となる企画力・提案力のさらなる育成に向けて、これらの学びを高校生が企業や地域社会との連携の中で実践していく場があるとさらによい。生徒の主体性や学習意欲を高めるためには、生徒・保護者のニーズへ対応できるようカウンセリング機能が高めていくことも有効である。ICT活用時にも、画面の見え方や音声の聞こえ方等について配慮していく視点が大切である。中学生の進路選択では、卒業生の高校での様子を重視している生徒が多いため、これから進路を考える中学生にも届くことになる。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	生徒一人一人の希望進路の実現に向けて、課題発見能力や確かな学力の伸長と共に、自らの考えや行動に責任をもち、他者と協働しながら行動できる力の育成を目指して、教科・特別活動・総合的な探究の時間でのそれぞれの教育活動が有機的につながりをもったカリキュラムマネジメントに努めていく。教育目標の実現に向けて、共通理解のもと有機的につながりをもって教育活動を推進していくため、教職員の研修・実践交流をさらに深めていく。本校の教育活動について、地域の小・中学校と連携しわかりやすく丁寧な情報発信を行っていく。
---------------	---